

トルコ観光振興 WG 現地視察 報告書

➤ アスペンドスについて

アンタルヤ市内から約 1 時間 20 分。保存状態がかなりいい。2 万人ほど収容が可能。舞台、裏手、上段にある柱廊が完全な状態で残っているところが特徴。舞台と柱廊に高さがあるため、外の雰囲気から隔離され、古代遺跡の中にいる感じが存分に味わえる。迫力があり、かなり見応えがある。現在も夏には劇場として使用されることもある。セルジューク朝時代は宿としても使われていた。数ある円形劇場の中はでも特にお勧めしたい劇場一つである。アンタルヤに行くなら必ず立ち寄りたい場所である。

アスペンドスを出たところで売っていたざくろジュースがおいしかった。観光地は 1 杯 10 リラ前後のところが多かったが、ここは 3 リラで安かった。その場で絞ってくれるので 100%。



・アスペンドス 最上段柱廊



・アスペンドス



・アスペンドス 舞台



・ざくろジュース

➤ スイデ（古代劇場、博物館、アポロン神殿）について

博物館には、ローマ時代の石棺や石像が良い状態で残されている。屋外にも多くの遺跡が残されており、特に様々な石棺が印象的だった。博物館、古代劇場ともにこじんまりとしているが、静かな雰囲気が良い。古代劇場から、お土産屋さんで賑わうメインストリートを通り、カフェやレストランが並ぶ海沿いを進んでいくと、突如アポロン神殿が現れる。一部がのこっている状態だが、かなり高さがあるため、圧倒される。夕日とアポロン神殿のコントラストはが絶景である。地中海の夕日は色が濃く、観光客も夢中で夕日を撮影していた。遺跡だけではなく、買い物や食事もあるので、ゆっくり時間を取り立ち寄りたい。地中海の雰囲気を楽しめる場所である。



・スイデ博物館



・海沿いのレストラン



・アポロン神殿

➤ アンタルヤ（旧市街カレイチ、プティックホテル、ハドリアヌス門について

旧市街カレイチは、歴史的でカラフルな建物が立ち並ぶ。プティックホテルやペンション、ショップ、レストラン、バー、ハمامなどなんでも揃っている。建物周辺には花が飾られていたり、木々が茂っていたり、落ち着いた雰囲気がある。夜はレストランやバーが遅くまで営業していて賑わっているらしい。地元の人も集まるそうだ。

路地は狭いが、車の通行は可能。車の量は少ないので、のんびり歩くことができる。カレイチの中にタクシー会社もあり。

こじんまりとしたプティックホテル、ペンションが数多くある。色合いがおしゃれで可愛いので、特に女性客には喜ばれると思う。石畳で坂も多いため、宿泊するには送迎をつけたほうがよい。

ララヤコンヤアルトゥビーチの大型ホテルに比べると、価格も安く、街歩きするには立地が良いので、フリーの方、連泊したい方にお勧め。大型ホテルのあるララヤコンヤアルトゥビーチまでは、トラムヴァイは通っておらず、初めてアンタルヤに行く方にはバスはわかりづらいかと思うので、タクシーもしくはオプションツアーを利用するのがよい。

コンヤアルトゥビーチから旧市街に向かう途中、アンタルヤ考古学博物館付近に展望台があり、そこは絶景スポットである。こちらで5分ほど立ち寄り、写真撮影をしてもらいたい。

カレイチのプティックホテルの中でも有名な ALP PASA ホテルへも立ち寄った。中に入っただけで、屋外バー、レストランがあり、観光客で賑わっていた。宿泊者以外の人も訪れる。

ハドリアヌス門は、レリーフが美しかった。門が旧市街の入り口になっているので、わかりやすい。



・展望台



・旧市街カレイチ



・ハドリアヌス門

➤ サガラツソス、温泉地カラハユットについて

・サガラツソスロッジ&スパ

サガラツソス周辺に唯一ある宿泊施設。開業して1年半ほど。施設内にはいたるところに絵画が飾られており、ギャラリーのようになっている。客室はシンプルだが、カーテンや壁に飾れている絵のセンスがよく、オーナーのこだわりが見て取れる。

ここの食事はぜひお勧めしたい。自然食にこだわっており、野菜、卵、ヨーグルト、ジャムなど自家製のものを出してくれる。他で食べたトルコ料理と比べ味付けが薄目で、食材そのものおいしい。特に野菜スープがおいしかった。

会議室もあるので、ビジネスミーティングも可能。

レセプション近くには、バラで有名な Rosense が販売されていた。Fam ツアー中、Rosense を取り扱っている店をほとんど見かけず、あってもハンドクリームだけだったが、このロッジには、15種類以上は取扱いしていた。ウスルバルタの直売所に比べると料金は高めらしい。

・サガラツソス遺跡

ロッジから車で10分ほどでサガラツソス遺跡に到着。標高1500m。BC1万年くらい前～ローマ時代の遺跡である。

広範囲に広がる遺跡で、全体の25%しかまだ発掘されていない。レプリカが多く、オリジナルはBURDURの博物館に所蔵されている。

一番の見どころはコンフェウム（泉）である。ほぼ完全な状態で残っており、保存状態がよい。中央部分からは現在も自然水が流れており、水量も多い。

図書館だった場所は、建物（小屋のような）の中にあり、床は全面的にモザイク画が残っている。普段この建物は鍵がかかっているが、入り口職員に言えば、見せてもらえるそうだ。

円形劇場はローマ式で、9,000人収容可能だった。2回の地震のせいで劇場の状態は悪く、一部はがれきの山のようになっている。1990年に発掘が開始され、観光地としては2010年にはじまったばかりである。遺跡は広範囲だが、ルート案内がなく、ガイドがいないと観光しづらい。また足場が悪いところもあり、特に円形劇場に入るところは危険だった。

雪は年に1,2度しか降らず、冬も営業している。

まさに天空の遺跡で、幻想的な雰囲気がある。山々の壮大な景色も素晴らしい。エフェスに並ぶ観光地になると感じた。



・サガラッソスロッジ



・サガラッソス遺跡



・温泉地カラハユット

ドアテルマルホテル

2014年に開業。楕円形のホテルで、真ん中部分にはプールがあり、地下から最上階まで吹き抜けになっている。高級デザイナーズホテルである。

22～24時の間、客室のバスルームは、温泉が流れるということだったが、FAMツアーのメンバーは蛇口をひねってもほとんど温泉が流れなかったようだ。フロントに言ったら温泉が流れたとのことなので、栓が閉まっていたかもしれない。

ホテルから5分ほど歩くとカラハユットの商店街がある。



➤ パムツカレについて

・ヒエラポリス

南門から入場し、ヒエラポリスから見学。敷地は広く、きれいに整備されている。遊歩道がしっかり作られているので、公園内を散歩しながら、遺跡を鑑賞できる。入り口でレンタルバイク、レンタルカーの貸し出しも行っている。

レンタルバイク 1台：40リラ/2時間

レンタルカー 1台（ドライバー付き）：100リラ/1時間

・石灰棚&アンティークプール

以前に来たときは、パンフレットに比べると随分黒いという印象だったが、今回見たときは、前回よりもかなり白くなっていると感じた。石灰棚には温泉は流れていなかった。温泉を流し続けると、黒くなったり緑色になったりするため、温泉を流す時期と抜く時期があるそうだ。その時期はいつなのかは事前にわからない。

足湯のところは、かなりの水量があり、また流れも速かった。足を取られて溝に落ちた観光客もいたので注意しなければならない。適温ですつつかっていたくらい気持ちよかった。

石灰棚から5分も歩かない場所にアンティークプールがある。別途入場料 32 リラ要。

温泉プールの中に遺跡がある。プールのまわりには、レストラン、お土産屋さん、ロッカーもある。

パムッカレ全体的に、清掃が行き届いていてきれいな印象を受けた。いたるところで現地の人が花壇のお世話をしており、整備に力をいれているのがわかる。



・パムッカレ 石灰棚



・足湯



・アンティークプール

➤ ダルヤン（クルーズ、泥風呂、岩窟墳墓、アオガニ、タートルビーチ）について

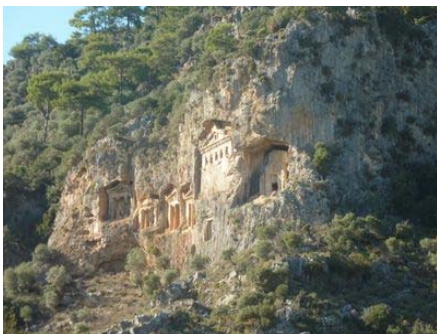
ダルヤン川クルーズは、途中で上陸できる観光ポイントが多くあるところが魅力的だった。3時間ほどのクルーズで、途中レストラン、泥風呂、イズトゥズビーチに上陸した。船上では、飲み物、お土産などが販売されている。

クルーズで10分ほど進んだところにある「デニズクズ」レストランで昼食を取った。クルーズ途中でいくつかレストランがあり、都度昼食場所は変わる。メインディッシュのますの塩焼きが絶品だった。身がふわふわで大きさもあった。

泥風呂は、11月は寒くて入れないとのことだった。確かに温泉も泥風呂もぬるく、気候ではないと寒そうだ。ひっそりとしたところにあり、隠れ家的村のようだった。次回は効能を試してみたい。

クルーズ途中で岩窟墳墓を見ることができる。BC4世紀の王の墓。距離はあるが、はっきりと見ることができる。崖を削ったところに墳墓があり、どのように作ったのだろうと不思議な気持ちにさせられた。

ウミガメで有名なイズトゥズビーチは、静かで広く、とてもきれいなビーチだった。世界で3番目に長い砂浜。時期によってはウミガメの産卵を見ることができる。フリータイムを作り、のんびりしたい場所である。



・岩窟墳墓



・ますの塩焼き



・泥風呂



・イズトゥズビーチ

➤ ホテル（マンダリンオリエンタル、マルマラ）について

・マンダリンオリエンタル

2014年開業。60ヘクタールの敷地にホテルとレジデンスタイプがあり、別荘としても使われる。

1泊約10万ほどからなので、富裕者層向け。日本食レストランもある。世界にあるマンダリンオリエンタルの中でもトップクラス。木を基調とした作りで、アジアっぽさがある。

オリジナルでオリーブオイルツアー（250リラ/1人 宿泊者価格）がある。オリーブ狩りとオリーブオイルをつくるツアーで、その場で持ち帰り可能。時期は10～11月と短めだが、他の時期には、オレンジやマッシュルームツアーも行っている。

・マルマラホテル

小高い場所に位置しているため、テラスからボドルムを一望でき、絶景である。夕日がとてもきれいだった。白を基調として、さりげないトルコらしい装飾がおしゃれで印象的。階段の側面にトルコタイルが使われていたり、廊下にボドルムの人々の写真が飾られていたり、トルコを感じることができるホテル。子供は宿泊できない。マッサージ、HAMAMあり、ジムからはボドルムを一望できる。ハネムーンなど特別な旅行でもお勧めできるホテルである。



・マンダリンオリエンタル





・マルマラホテル

➤ ボドルム（ボドルム城、ランチクルーズ）について

ボドルム城に行く途中の海沿いに多くのクルーズ船、お店、レストランがあり賑わっている。ボドルム城からは、ボドルムの全景を見ることができる。展示室も充実している。昼になると展示室は閉まるので時間に注意しなければならない。

急な階段や上り坂が多く、また石畳なので、歩きやすい恰好が必要。

地中海クルーズは、約3時間のクルーズ。デッキと船内にテーブルがある。デッキには2か所ソファもあり、のんびりすることができる。宿泊も可能で、8ROOM/16名まで宿泊できる。40分ほど進み、しずかな沖合で、船上ランチを取った。船内で調理し、バーベキューも用意してくれた。メインを魚と肉から選択できるが、前日に魚料理が続いたため、肉料理を提供してくれた。船長自らがバーベキューの準備をし、お肉を焼いてくれる。ラムチョップ、キョフテ、鳥シシなど種類も豊富で、ツアー中の食事の中でも一番おいしかった。前菜もテーブルに乗りきらないくらい出てくる。

クルーズ船からは、ボドルムの街並み、城、円形劇場など全てみることができる。海は深い青色で、ランチの場所は、下まで透き通るほどきれいな海水だった。かなり豪華な気分が味わえるクルーズなので、ぜひお勧めしたい。



▶ 村の模擬挙式について

チョマクダーは、人口約 1100 人、350 家族の村。村伝統の結婚式を見学した。通常 4 日間かけて行う結婚式を、2 時間ほどに集約する。屋外の村の広場で行われた。式前に食事が振る舞われる。豆スープや煮込み料理など家庭料理がメイン。村長さんが解説をしながら、模擬挙式の出演者が、民族衣装を着てエフェのダンスを踊る。トルコ西側らしいゆったりした踊りが特徴。最後にツアー参加者も一緒に踊った。細かく解説をしてくれたが、ガイドの方が全て通訳するとなると、ガイドに寄って伝わり度のばらつきも出そうである。トルコリピーターの人にはお勧めできるが、初めての方にはディープすぎるかもしれない。村全体で歓迎をもらえ、また子供たちが人懐っこく、積極的に関わってきてくれたので、うれしかった。



▶ エフェス、聖母マリアの家、博物館、アルテミス神殿跡、シリンジェについて

クシャダスホテルから 30 分ほどで到着する。大規模なギリシャ、ローマ時代の遺跡である。今年世界遺産にも登録された。トルコのギリシャ、ローマ時代の遺跡の中では一番知名度も高く、観光客でいっぱいだった。2 万 4000 人を収容できた円形劇場は、大規模で圧巻である。図書館、トラヤヌスの泉、アゴラなど見どころが多く、また保存状態も良いため、当時の生活を想像することができる。今回は北チケット売り場から入場したが、登坂になるので、聖母マリアの家よりのチケット売り場から入場するのがよい。

エフェスから車で 10 分のところに聖母マリアの家がある。聖母マリアが晩年過ごした場所と言われる。中は神聖な雰囲気、巡礼者も多い。白い紙に願い事を結びつける場所もある。

エフェス考古学博物館はアルテミス像が必見である。アルテミス像だけ別室に展示されている。

アルテミス神殿跡は、古代七不思議のひとつである。1 本の円柱を残すのみで、ひっそりとしている。

シリンジェ村は落ち着いた雰囲気、可愛らしい建物が印象的である。特に女性に喜ばれそうな場所である。落ち着いた雰囲気があるが、お土産さんがたくさん立ち並び、観光客で賑わっていた。ワインが有名で、試飲ができる店が何件もある。ナチュラル石鹸や雑貨も多く売られている。遺跡を巡ったあとに、シリンジェでゆっくり時間をとってお茶をしたり、買い物をするのなど癒される空間としてご案内したい。



・エフェス ケルス図書館



・エフェス考古学博物館



・シリンジエ

➤ ホテル（スイソティル）について

イズミル中心地、ジウムフリエット広場の目の前に位置する大型ホテル。約 4000 ルームあり、全室バスタブ付き。スカイバーからは、ジウムフリエット広場と地中海の景色を見ることができる。スカイバーにプライベートルームもあり。ブティックやセミナールームもあり、かなり広い。ビジネス客が多く慌ただしい雰囲気がある。スイートルームには、コネクティングルームもあり。ビジネス、学会などに適しているが、立地がよく、ホテル周辺にもレストランなどがあり、またイズミルの老舗ホテルということでレジャー客にもお勧め。



➤ アクロポリス、アスクレピオンについて

アクロポリスへはロープウェイを利用。8人乗りロープウェイで、乗車時間3分ほどで、アクロポリス入り口へ到着。

ベルガマは、19世紀から発掘が始まったが、未だに全体の30%しか発掘が進んでいない。トルコでは、6-8月の期間しか発掘作業をしてはいけないという決まりがある。

円形劇場はギリシャヘレニズム式で、急斜面に沿って作られているのが特徴である。舞台が動くような装置があったこともベルガマでしか見られない。アンフィテアトロというダブルタイプの劇場（コロッセオのような）もあるそうだが、まだ発掘はされていない。トラヤヌス神殿や図書館も大きく、特に柱が立派に残っていた。図書館は、20万冊が所蔵されていたという。ベルガマは羊皮紙産業がさかんだった。町のお土産屋にも羊皮紙の店があった。

アスクレピオンは、総合ヘルスセンターだった場所。古代ベルガマは医療が発達していた。水の流れる音を使った精神医療なども行われていた。再生の象徴である蛇のレリーフがある円柱が見どころである。

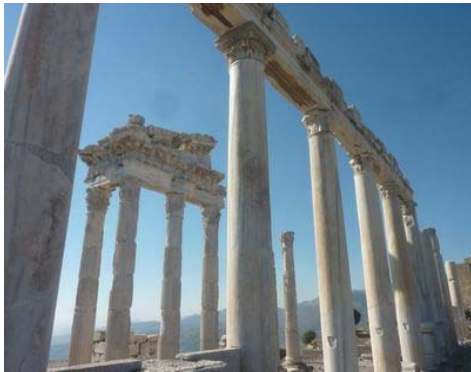
エフェスに比べると知名度が低いですが、ロープウェイや、斜面の円形劇場などベルガマでしかないものがある。また医療が発達していたことなど時代背景も全く異なるので、謳い方次第で呼び込みが可能な場所であると思う。



・ロープウェイ



・アクロポリス 円形劇場



・アクロポリス トライヤヌス神殿



・アスクレピオン

➤ TURSAB 主催セミナー、ワークショップについて

プレゼンテーションで、トルコ旅行業の現状をわかりやすく説明してくれた。時間の関係で、急ぎ足でプレゼンテーションが進行されたため、できればその資料を配布してもらいたかった。ワークショップでは、現地旅行会社の方に、トルコについて生の声を聞け、意見交換をできたことがよかった。



➤ その他（ホテル、食事、航空会社等）について

ターキッシュエアラインズは行き帰りとも満席に近かった。歯ブラシ、アイマスク、スリッパなどのアメニティをもらえる。アルコールもフリー。食事は魚か肉から選択。食事以外にもサンドイッチなどの軽食を注文することもできる。イスタンブル早到着の便だが、空港の両替所、カフェは開いている。

アンタルヤの空港は、国際線と国内線で荷物の受け取りが違う。成田からスルーで荷物を預けた場合は、国際線扱いとなる。飛行機を降りたあと、バスで空港内まで移動するが、係員の案内がわかりづらかったので、事前 INFO が必要である。

トルコの食事は、外れがなくどれもおいしかった。今回現地の開発機構の方のご厚意で、毎回の食事をいいレストランで取らせてもらっていたということもあるが、トルコ料理自体が日本人の口に合うと思う。野菜や果物は、日本よりも味が濃く、おいしい。自信を持ってお勧めできるので、観光と合わせてトルコ料理のアピールもしていくべきだと感じた。例えば、モンサンミッシェルと言えばオムレツ！といったように、アンタルヤと言えばザクロ、サガラツソスと言えばナチュラルフード（何かメインのものがあれば尚よいと思うが）、エフェスと言えばシリンジエにも寄ってワイン！というようなイメージをつけていけば、相乗効果でより興味を持ってもらえると思う。



・機内食



・アタチュルク空港 国内線



・サガラツソスロッジの昼食



・ボドルムクルーズ バーベキュー

➤ 視察先の BEST 5

- ① アンタルヤ
- ② シリンジエ
- ③ ボドルム
- ④ アクヤカ
- ⑤ サガラツソス

➤ ツアーアイティナリーをお考えください。(最低 1 つ、複数可)

①

ハネムーン♡ ボドルム&イスタンブール7日間					
日付	都市	時刻	交通	スケジュール	食事
1day	日本発	夜	AIR	空路、イスタンブールへ 《機中泊》	朝:ー 昼:ー 夕:ー
2day	イスタンブール着 イスタンブール発 ボドルム着	早朝 朝 朝	AIR AIR 専用車	トルコ国内線ご移動 空路、ボドルムへ ご到着後、ホテルへ送迎 《ボドルム泊》	朝:機内 昼:ー 夕:ー
3day	ボドルム滞在			終日、自由行動 ★オプションツアー ・地中海クルーズ ・チッタスロー アクヤカ など 《ボドルム泊》	朝:ホテル 昼:ー 夕:ー
4day	ボドルム発 イスタンブール着	XX:XX XX:XX	専用車 AIR 専用車	空港へ送迎 空路、イスタンブールへ ホテルへ送迎 《イスタンブール泊》	朝:ホテル 昼:ー 夕:ー
5day	イスタンブール滞在			終日、自由行動 ★オプションツアー 《イスタンブール泊》	朝:ホテル 昼:ー 夕:ー
6day	イスタンブール発	夜	専用車 AIR	空港へ送迎 空路、成田へ	朝:ホテル 昼:ー 夕:ー
7day	成田着	朝		成田着	朝:機内 昼:ー 夕:ー

②

アンタルヤ&イスタンブール7日間					
日付	都市	時刻	交通	スケジュール	食事
1day	日本発	夜	AIR	空路、イスタンブールへ 《機中泊》	朝：－ 昼：－ 夕：－
2day	イスタンブール着 イスタンブール発 アンタルヤ着	早朝 早朝 朝	AIR AIR 混載車	トルコ国内線ご移動 空路、アンタルヤへ ご到着後、ホテルへ送迎 ■アスペンドス&シデツアー 《アンタルヤ泊》	朝：機内 昼：レストラン 夕：－
3day	アンタルヤ滞在			終日自由行動 ★オプションツアー ・旧市街イチカレ など 《アンタルヤ泊》	朝：ホテル 昼：－ 夕：－
4day	アンタルヤ発 イスタンブール着	XX:XX XX:XX	混載車 AIR 専用車	空港へ送迎 空路、イスタンブールへ ホテルへ送迎 《イスタンブール泊》	朝：ホテル 昼：－ 夕：－
5day	イスタンブール滞在			終日、自由行動 ★オプションツアー 《イスタンブール泊》	朝：ホテル 昼：－ 夕：－
6day	イスタンブール発	XX:XX XX:XX	専用車 AIR	空港へ送迎 空路、成田へ	朝：ホテル 昼：－ 夕：－
7day	成田着	朝		成田着	朝：機内 昼：－ 夕：－

③

世界遺産とワインの旅8日間					
日付	都市	時刻	交通	スケジュール	食事
1day	日本発	夜	AIR	空路、イスタンブールへ 《機中泊》	朝：－ 昼：－ 夕：－
2day	イスタンブール着 イスタンブール発 ネヴシェヒル着	早朝 早朝 朝	AIR AIR 混載車	トルコ国内線ご移動 空路、ネヴシェヒルへ ご到着後、カッパドキアへ送迎 ■カッパドキア終日観光 《カッパドキア泊》	朝：機内 昼：レストラン 夕：－
3day	カッパドキア発	夜	夜行バス	自由行動 夜行バスにてパムッカレへ 《車中泊》	朝：ホテル 昼：－ 夕：－
4day	デニズリ着	早朝 昼	混載車 混載車	ホテルへ送迎 ホテルにて休憩 ■パムッカレとヒエラポリス観光 ツアー終了後、イズミルへ 《イズミル泊》	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：－
5day	イズミル発 イスタンブール着	朝 夜 夜	混載車 AIR AIR	■選べる世界遺産&ワインツアー ①エフェス遺跡&シリンジエ村 ②ベルガマ遺跡&イズミルワイナリー ツアー終了後、空港へ送迎 空路、イスタンブールへ ご到着後、ホテルへ送迎 《イスタンブール泊》	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：レストラン
6day	イスタンブール滞在			自由行動 ★オプションツアー 《イスタンブール泊》	朝：ホテル 昼：－ 夕：－
7day	イスタンブール発	夜	専用車 AIR	空港へ送迎 空路、成田へ 《機中泊》	朝：ホテル 昼：－ 夕：－
8day	日本着		AIR	成田着	朝：機内 昼：－ 夕：－

➤ トルコの需要喚起（課題、対策、要望など自由にご記入ください。）

まずはトルコへ足を運んでもらえるようにアピールをしていくことが大事だと思う。トルコは危険ではないかと漠然としたイメージがある。今どの国も絶対安全だとは言いきれないが、今回 FAM ツアー中に危険と感じたことはない。地中海、エーゲ海地方のビーチエリアには、難民が押し寄せているではという心配もあったが、難民が溢れているという光景を見ることはなかった。今回の FAM ツアーで、新たなトルコの一面を見ることができた。トルコは遺跡だけでなく、リゾート地としても他の国に負けない魅力を持っていると思う。例えばアンタルヤ旧市街やボドルムの白い家々の風景の映像を見れば、トルコにこんなところがあるのかと興味を引き付けることができるし、興味を引き付けるだけの素材は十分にあると思う。

トルコを知ってもらうために、まず自ら情報を取りに行かなくても勝手に入ってくるような状況を作ることが必要だと思う。例えばダイドードリンクがトルコの大手食品グループを買収したが、そういったトルコつながりで、ダイドーの CM でトルコを使ってもらうことなど、テレビ CM や雑誌などの利用は有効だと思う。

➤ 研修旅行における感想（よかった点、改善点、要望など自由にご記入ください。）

現地各地域の開発機構や TURSAB の方々に手厚くもてなしていただいたことにとっても感動した。また毎日スケジュール調整してくださり、細かいところまで気を配ってくださったガイドのデブリムさんにもとても感謝している。地中海、エーゲ海の魅力をしっかりと感じる事ができたツアーだった。改めてトルコは観光資源の多い国だと実感した。元々行程には入っていなかったシリンジエの視察もできよかった。逆にその日ではないと明確なスケジュールや宿泊ホテルがわからなかったことや、マルマリスが行程から外れたことは少し残念だった。今回の FAM ツアーを通して、新たなトルコを発見することができたので、見て感じてきたことを取引先の方々にしっかりと伝え、トルコへの送客につなげていきたいと思う。